

基本技術の実践により、丈夫な稲づくりを行いましょ！



☀️ 気象情報 令和5年4月25日新潟地方気象台発表

<5月>天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多い見込みです。

<6月>期間の前半は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

気温は、高い確率が50%です。

1. 田植え後の水管理

👉 良食味米を安定生産するためには、早期に良質茎を確保することが重要です！

田植え直後～苗が活着するまで

➡️ 苗の葉先が少し見えるくらいの深水(3～4cm)を維持し、苗を保護しましょう。

活着後(新根、新しい葉が出始めたら)

➡️ 2～3cm程度の浅水管理で水温・地温の上昇を図り、分けつ発生を促しましょう。

※「早期のかん水と日中の止め水」励行で水温上昇を促し良質茎を確保しましょう。

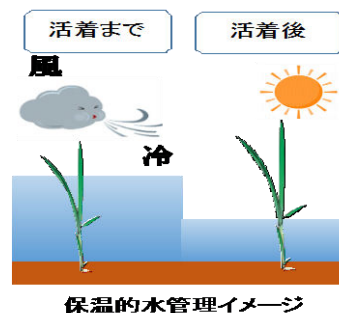
※強風時や低温が予想される日は、一時的に深水にし、イネの保護に努めましょう。

《茎数の少ない原因》

茎数不足の一つの原因として、活着遅れや分けつ不足が考えられます。その要因には、苗質の不良や田植え後の天候不良も考えられますが、苗質や天候があまり悪くなくても、分けつがとれない場合があります。

●深植えすぎて活着が遅れる場合 ●活着後の水管理が深水のまま分けつが進まない場合です。

➡️ 分けつが少ないようでしたら、活着後は思い切って浅水管理に切り替えましょう。



2. 分けつ期の水管理～ほ場のワキ(還元)対策

👉 田植え後の地水温が上昇し活着促進も図られる反面、ワキの発生には十分注意が必要です！

★ワキの発生は根の伸長を阻害し、その後の生育を抑制する可能性があるためこまめな水管理が重要となります。

《分けつ初期から中期のワキの程度と対策》

ワキの程度	生育への影響	対策
水田に足を踏み入れても気泡が発生しない。	なし	—
水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	根張り不良	水交換
晴天時自然に気泡を発生し、音が聞こえる。	根の伸長阻害地上部黄化	夜間落水、田干し

ワキの程度に応じた「水交換」「夜間落水」「田干し」を行い根の健全化を図りましょう。

基肥をしっかり入れたのに、葉色が薄い、葉先が黄色くなっているなどの要因として「ガス」が溜まって根の伸長が阻害されていることが考えられます。

☑️ 追肥を検討する前に、ほ場のワキの状態を確認しましょう！

➡️ 気泡の発生が甚大な場合は、軽く田干し(1～2日間落水)を実施しましょう。

3. 中干しと溝切り

適性な生育量の確保や生育後期の稲体を健全に保ち、登熟を良好にするための重要な技術です。
※大区画ほ場ほど灌水に時間がかかるため、可能な限り実施しましょう。
～登熟歩合や千粒重の向上により品質・収量を確保しましょう～

★中干し、溝切りの開始時期★

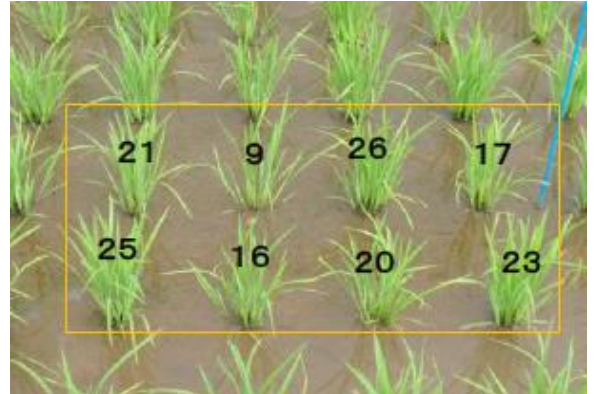
田植え後30～35日をめやすに実施しましょう！

中干し開始は目標茎数の7～8割程度確保した時期。生育過剰になりやすいほ場では、より早めの6～7割の時期に開始しましょう。中干しの開始時期が遅れると、生育や粒数の過剰となり、品質低下を招く恐れがあります。

【コシヒカリ中干しの開始時期のめやす】

栽植密度	中干し開始の茎数めやす(※)	
50株/坪	270本/m ²	18本/株程度
60株/坪		15本/株程度

※目標穂数(コシヒカリ 340本/m²)の80%



4. 病害虫防除対策

- ◆農道・畦畔などがカメムシ類の生息地となるので草刈りを徹底しましょう。
- ◆カメムシ類のエサとなるイネ科雑草が穂をつけない間隔で草刈りを実施しましょう。
- ◆水田内のヒエ、ホタルイもカメムシ類の増殖源となるので注意しましょう。
- ◆補植苗はいもち病の発生源となるので速やかに撤去しましょう!!

J A 北越後 斑点米防止計画

草刈り重点推進期間

第1回 6月15日(木)～6月30日(金)

第2回 7月15日(土)～7月31日(月)

※雑草が結実しない間隔で適宜草刈りを実施しましょう。

農道畦畔一斉防除期間

7月7日(金)～7月9日(日) ※各地域防除協議会の病害虫防除計画をご確認ください。

～地域一斉のカメムシ防除で斑点米ゼロを目指しましょう～



令和5年春【農作業安全確認運動展開中！】

《徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策》

- 機械作業を中断するときは必ずエンジンを止める習慣を身に付けましょう。
- トラクター等を駐停車するときは、駐車ブレーキを確実にかける習慣を身に付けましょう。